

# 「第9回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2019」 の調査結果に対するリクルート進学総研所長 小林浩の見解

リクルートでは2003年から、全国高等学校PTA連合会と合同で高校生と保護者の進路に対する意識調査を実施しています。今年の調査結果から見えるポイントは以下の通りです。

## <POINT>

### 1) 教育改革の内容について、「高校教育」への期待は高まる一方「大学入学者選抜」への不安が残る

- 「高校の教育」への期待のトップは、  
高校生：「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べる」70.2%  
保護者：「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」61.7%
- 「大学入学者選抜」への「不安」のトップは、高校生・保護者ともに、  
「現在の『大学入試センター試験』が、記述式問題も出題される『大学入学共通テスト』に変わることに」

### 2) 進路選択のアドバイスが「難しい」と回答した保護者は73%で、

難しいと感じる要因は「入試制度を知らないから」が引き続きトップ。

また、重要だと考える情報は「現在の入試制度の仕組み」が80%と、アドバイスが難しい要因としてトップだった『入試制度』が、重要な情報としても重視されている。

## <解説>

高校教育・大学教育・大学入学者選抜を一体的に改革しようという「高大接続改革」が進められている。これは、戦後最大の教育改革と言われ、その本質はこれからの社会で求められる素養・能力が大きく変化する中で、学び方を変えていこうという大きな改革である。これは、日本だけでなくOECDでも新たに「21世紀型スキル」等が求められるとされている。

高校では、2022年より新学習指導要領が導入されるが、その目玉となる「探究」学習は、すでに2019年から高校で先行導入されている。そのため、高校生や保護者も高校の教育改革について、実感しつつあることが本調査でも明らかになった。

一方、入試改革については、本調査時点では、大学入試センター試験に替わる大学入学共通テストにおいて、英語4技能民間検定の活用や記述式の導入等の扱いが不明瞭であったため、「大学入学者選抜」に対する不安が高まる結果となった（その後、見直し）。大学入学共通テストだけにとどまらず、2021年度入試からは各大学の個別選抜でも、「各大学の入学者受け入れ方針に基づき、学力の三要素を評価する入試」に変更することが決まっている。しかし、2021年度入試に対する各大学の方針発表が遅れており、保護者にとって入試制度についての情報が、最も重要な情報となっていることが浮き彫りになった。

## リクルート進学総研 所長 小林 浩（こばやしひろし）

PRODUCED BY RECRUIT

### <プロフィール>

1988年（株）リクルート入社。早稲田大学法学部卒。グループ統括担当や『ケイコとマナブ』商品企画マネジャー、大学ソリューション営業、社団法人経済同友会出向（教育問題担当）、会長秘書、大学ソリューション推進室長などを経て、2007年4月より現職。文部科学省中央教育審議会高大接続特別部会委員、高大接続システム改革会議委員等を歴任。  
現、リクルート進学総研所長 兼、『リクルートカレッジマネジメント』編集長



<リクルート進学総研とは> URL : <http://souken.shingakunet.com/>

高校生、進路選択に関する調査研究機関として、以下の活動を行っています。

- ・全国の大学、短期大学、専修学校など、高等教育機関の経営層向けの専門誌『カレッジマネジメント』の発行
- ・高校の先生を読者対象とする進路指導、キャリア教育の専門誌『キャリアガイダンス』シリーズの発行
- ・高等教育機関、高校生、進路選択に関する各種調査の実施や社外に向けての情報発信

### <取材にお答えできます>

- ・大学をめぐる政策動向全般について
- ・高校生の進路や将来についての価値観・大学のブランド力
- ・高校生、保護者、高等教育機関についての各種データ・マーケット動向や事例など、高校生～大学経営まで教育に関わる内容について幅広くお答えします。

【本件に関するお問合せ・取材のご依頼】株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 広報

[https://www.recruit-mp.co.jp/support/press\\_inquiry/](https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/)

【本調査リリースの全文掲載はコチラ】リクルート進学総研 <http://souken.shingakunet.com/research/>